

潰瘍性大腸炎、クローン病の

治療で通院されている患者さまへ

臨床研究について

～便中カルプロテクチン測定の有用性～

町立中標津病院の内科は、旭川医科大学が行なっている炎症性腸疾患に関する臨床研究に、共同研究機関として参加しています。今般、旭川医科大学が炎症性腸疾患に関する臨床研究の一部として、新たに下記の研究を実施することから、当院内科におきましても、共同研究機関として、下記研究に参加することとなりました。

研究の内容としては、潰瘍性大腸炎患者さまに対する寛解導入療法（顆粒球吸着除去療法）において、便中カルプロテクチン測定のバイオマーカーとしての有用性とメカニズムの解析、また、クローン病患者さまにおいても顆粒球吸着除去療法を実施した場合、便中カルプロテクチン測定値の変化が有用か？どうかを研究するものです。

この研究は、潰瘍性大腸炎およびクローン病の治療で通院中の患者さまのご協力（ご参加）が必要な研究です。この研究にご協力していただく際には、詳しい説明させていただいたうえで、参加の意思をご確認します。もし、不参加を希望されても、その後の診療、治療に不利益を被ることはありません。患者様の自由意思が尊重されますので、ご心配はいりません。

記

1 研究テーマ

（１）顆粒球吸着除去療法を実施する潰瘍性大腸炎患者に対する便中カルプロテクチン測定のバイオマーカーとしての有用性とメカニズム解析

（２）顆粒球吸着除去療法を実施するクローン病患者における便中カルプロテクチン測定値の変化に関する探索的研究

（３）潰瘍性大腸炎患者に対する寛解導入療法における便中カルプロテクチン測定の有用性に関する検討

2 研究期間

2024 年 4 月 1 日 ～ 2028 年 3 月 31 日

2024 年 4 月 1 日

町立中標津病院

内科部長 杉村浩二郎